アート×アート×アート　第１回

世界を席巻する藤倉大パラダイス

音楽×エレクトロニクス×映像

2013.4.27 (sat)　①14:30 開場 / 15:00 開演 (約 1 時間)　②17:00 開演 (約 1 時間)

※16:00～17:00　ロビー開場　表参道 L'AS　兼子シェフによる食とのコラボレーション

全席指定 1 回券: 2,500 円 (各回別プログラム)　通し券:4,000 円

フィンガーフード 2 種＋1 ドリンク:1,500 円 (限定 70 食)

※通し券･フード券は Hakuju Hall チケットセンターお電話のみで取り扱いあり


(C)Ai Ueda

シリーズ第 1 回は、世界で大活躍している作曲家、藤倉大をフィーチャーし、演奏家との密なコラボレーションから生まれた室内楽作品、そして、懇意にしている坂本龍一と共同で作曲された電子音楽作品の映像付き世界初演など、日本での上演が珍しい作品を披露します。

また、演奏される作品の創作や演奏方法などに触れた「アフタートーク」なども併せて開催し、現代を疾走する作曲家の「いまを伝える機会」とします。

シリーズのコンセプトに従い、今回披露される坂本＋藤倉共同新作に、原田大三郎監修のもと選ばれた若手映像作家がヴィデオ作品を制作、音楽と併せて上映するなど、若手アーティストとのコラボレーションも行ないます。また日本初演を含む 2 曲の弦楽作品は、若手奏者たちによって時間をかけてリハーサルされ、成果が本番で披露されます。このように次代のアーティストの育成も視野にシリーズを始めます。

さらに 1 回目公演と 2 回目公演の間は、藤倉大の音楽にも通じる、新奇なアイディアと驚きに満ちたメニューで話題のフレンチレストラン・表参道 L'AS の兼子シェフによる食とのコラボレーションの時間にしました。話題のフィンガーフード 2 種に加えて、心と体のトータルプロデュースを謳う Hakuju のために、ヨーロッパで古くから「万能の薬箱」として重用されているハーブ・エルダーフラワーを使ったドリンクをご用意しました。藤倉大の音楽が流れるホワイエ、スカイテラスにてお楽しみいただく、音楽と食、Hakuju Hall の空間をトータルで体験していただく新しい試みです。

助成:アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)　ARTS COUNCIL TOKYO

もう 40 年近く前、「現代音楽」にはもう可能性はないと思いすすむ道を変えました。
それからずいぶん時間が経ちましたが、まだまだ面白い音があったのだ、というううれしい驚きをもって藤倉大さんの音楽を聴いています。　坂本龍一

【プログラム】

Part1　15:00

藤倉大（作曲）：スパークス（独奏ギターのための）　2011　　山田岳（g）

：セクセク　/　アヤトリ　　大崎結真（pf）

：サイオン・ステムズ（弦楽三重奏）　2011　　中澤沙央里（vn）、千原正裕（va）、宮坂拡志（vc）

：アナザー・プレイス（弦楽四重奏曲　第１番）　2005　　辺見康孝、亀井庸州（vn）、花田和加子（va）、細井唯（vc）

：ぽよぽよ（独奏ホルンのための）　2012　　福川伸陽（hrn）

：ペリフェラル・ムーヴメント（坂本龍一共同作曲・電子音楽作品）　世界初演

映像製作　：山本渉、新井誠也、薩摩浩子

Part2　16:00　ホワイエ・スカイテラスにて

藤倉大（作曲）：アイ・ドリームド・オン・シンギング・フラワーズ（環境音楽）

兼子大輔（シェフ）：2 種のフィンガーフード　フォアグラのクリスピーサンド

トマト、バジル、オリーブオイルを使ったカクテル・デザート

ドリンク　エルダーフラワーカクテル（アルコール・ノンアルコール）

＊表参道の人気フレンチレストラン　L’AS が提案する現代的フィンガーフードとヘルシーなドリンク

（限定７０食）　L’AS　http://www.las-minamiaoyama.com/

Part3　17:00

藤倉大（作曲）：フローズン・ヒート　/　ディープンド・アーク　　大崎結真（pf）

：サカナ（独奏サックスのための）　2007　　大石将紀（sax）

：フレア（弦楽四重奏曲　第２番）　2010　　ウェールズ弦楽四重奏団

：ペリフェラル・ムーヴメント（坂本龍一共同作曲・電子音楽作品）　世界初演

映像製作　：山本渉、薩摩浩子、新井誠也

18:00

アフタートーク

原田大三郎（多摩美術大教授）、白石美雪（音楽評論家・武蔵野美術大学教授）、藤倉大

※音源・作品解説は以下の URL からご覧ください。

http://www.daifujikura.com/（藤倉大公式ホームページ）



フォアグラのクリスピーサンド



トマト、バジル、オリーブオイルを使ったカクテル・デザート

◆藤倉大（作曲）◆ Dai Fujikura, composer

藤倉大は大阪に生まれ、今や20年以上を英国で過ごしている。英国ではエドウィン・ロックスバラ、ダリル・ランズウィック、ジョージ・ベンジャミンに師事し、作曲を学んだ。これまでイギリスのハダースフィールド国際音楽祭作曲家賞、ロイヤル・フィルハーモニック作曲賞、オーストリアの国際ウィーン作曲賞、ドイツのパウル・ヒンデミット賞、2009年の第57回尾高賞および第19回芥川作曲賞、'10年の中島健蔵音楽賞、エクソンモービル賞をはじめ、数々の著名な作曲賞を受賞している。藤倉が受けた委嘱、そしてその作品が演奏される公演リストを見れば、急速に彼が真の国際的な作曲家になりつつあることが分かる。彼の作品は母国や居住国だけではなく、カラカス、オスロ、ベネツィア、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、ルツェルン、パリと地理的に多様な場所で演奏されている。日本では'12年10月にサントリーホールで個展コンサートを開くという貴重な機会を与えられている。妻と家族で住んでいるロンドンでは、BBCプロムスから2つの委嘱を受けているほか、コントラバス協奏曲がロンドン・シンフォニエッタによって初演されている。'13年には《atom》が"Total Immersion: Sounds from Japan"と題する演奏会の中で、BBC交響楽団によってイギリス初演される予定である。藤倉の音楽はフランスでも受け入れられ、多数の委嘱が行われている。中でも彼の初めてのオペラ作品（演出：勅使川原三郎、シャンゼリゼ劇場・ローザンヌ歌劇場・リール歌劇場による共同制作）はそれらの頂点と言える。ドイツでは、グスターボ・ドゥダメルとシモン・ボリバル・ユース・オーケストラに捧げられ、世界初演された作品である、《Tocar y luchar》がベルリンのウルトラシャル音楽祭でヨーロッパ初演された。ほかにもミュンヘン室内管弦楽団の委嘱で《Grasping》を作曲。韓国で初演された後、ミュンヘンでも演奏された。スイスではルツェルン・フェスティバル、オーストリアではクラングシュプーレン音楽祭、ノルウェーではプンクト・フェスティヴァルで藤倉の作品が取り上げられた。ノルウェーでは'13年にオスロ・シンフォニエッタによる委嘱作品が初演される予定である。これまでに藤倉の作品を初演・演奏した指揮者には、ピエール・ブーレーズ、ペーター・エトヴェシュ、ジョナサン・ノット、グスターボ・ドゥダメル、アレクサンダー・リープライヒ、スイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者に就任予定の山田和樹らが挙げられ、彼の作品は国際的に共同委嘱されることがますます増えている。2012／13シーズンを皮切りに、木管楽器・打楽器による5人のソリストとオーケストラのための《Mina》がシアトル交響楽団、バンベルク交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団によって、それぞれの大陸で初演される予定である。昨年はアルディッティ弦楽四重奏団が《flare》をロンドン、エディンバラ、東京のそれぞれの会場の共同委嘱のもと、初演した。スタニスラフ・レムの小説『ソラリス』に基づくオペラもフランスとスイスにおいて共同制作される。'12年にはNMCレーベルより藤倉の作品集のCDがリリース予定。彼の作品の楽譜はリコルディ・ミュンヘン（ユニバーサル・ミュージック・パブリッシング・グループ）より出版されている。

◆山田岳（ギター）◆ Gaku Yamada, guitar



1981年広島生まれ。ドイツ・ベルリンにて研鑽を積み、在独中より多くの現代音楽シリーズに出演。現在は東京を拠点に多くの独奏・室内楽作品の新作初演に携わる。またアンサンブル・ノマドなどの現代音楽アンサンブルへの参加や即興演奏など、様々な切り口で音楽の今を伝える活動を展開している。近年は国外での活動も多く、2012年は北京、ハノイ、ホーチミンシティなどから招聘されリサイタルやマスタークラスを行った。第9回現代音楽演奏コンクール「競楽 IX」にて優勝、第20回朝日現代音楽賞を受賞した。これまでにギターを佐藤紀雄、長野文憲、徳武正和、E.カソリ、D.ゲーリッツの各氏に師事。

◆大崎結真（ピアノ）◆ Yuma Osaki, piano



2000年、東京藝術大学附属高校卒業後、イモラ音楽院、パリ国立高等音楽院大学院（第3課程）、パリ・エコール・ノルマル音楽院等で学ぶ。浜松、ロン＝ティボー、ルービンシュタイン、ピラール・バヨナ、ジュネーブ、リーズ、ショパン（ファイナリスト賞）など、主要国際コンクールで多数の入賞歴を持つ。国内外のオーケストラとの協演の他、コンサートや音楽祭にも多々招かれ好評を博している。2010年より拠点をパリから日本へ移し、同年、第37回『日本ショパン協会賞』を受賞。これまでにリリースされた3枚のアルバムは何れも高い評価を得、『深碧のラヴェル』はレコード芸術誌にて特選盤に選出される。藤原亜津子、大畑知子、金子勝子、播本枝未子、中村紘子、F.スカラ、J.ルヴィエ、M.リビツキーの各氏に師事。

◆中澤沙央里（ヴァイオリン）◆ Saori Nakazawa, violin



4 歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学研究科修了。第58回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部、奨励賞。第21回大曲新人音楽祭コンクール弦管打楽器部門、奨励賞。第18回日墺文化協会フレッシュコンサートに出演、優秀賞を受賞。これまで、テッセラの春・第四回音楽祭「新しい耳」、レインボウ 21 サントリーホールデビューコンサート、荻窪音楽祭等に出演。ボルドー音楽祭 in 横浜では、パリ管弦楽団コンサートマスターのロラン・ドガレイユ氏らと共演。現代作品にも積極的に取り組み、シルヴァーノ・ブソッティ、ヨンギ・パクパーン、レジス・カンポ、権代敦彦、湯浅譲二、一柳慧の各氏らの作品を演奏、初演。その他、同年代の作曲家による作品の初演多数。日本現代音楽協会 80 周年記念演奏会に出演。クールシュベール夏期国際音楽アカデミー、ビアリッツ夏期国際音楽アカデミー、ボードイン国際音楽祭 、若いひとのための「サイトウ・キネン室内楽勉強会」、小澤征爾音楽塾、日本現代音楽協会主催「器楽アトリエ」、インターナショナル・アンサンブル・モデルン・アカデミー with トーキョーワンダーサイト等に参加。これまでヴァイオリンを、鈴木亜久里、辰巳明子の両氏に師事。

◆千原正裕（ヴィオラ）◆ Masahiro Chihara, viola



4 歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校入学時にヴィオラに転向。並びに同大学卒業。サイトウ・キネン若い人のための室内楽勉強会、サイトウキネン青少年のためのオペラ、サイトウキネンフェスティバル松本に参加。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトIX参加。2007年PMFオーケストラアカデミー参加、また翌年への招待を受ける。プロジェクトQ第VI章ハイドンシリーズ参加。’11年兵庫芸術文化センター管弦楽団を卒団。これまでにヴァイオリンを奥田雅代、道昭、富士子の各氏に、ヴィオラを川本嘉子、大野かおるの各氏に師事。

◆宮坂拡志（チェロ）◆ Hiroshi Miyasaka, violoncello



1982 年東京生まれ。5歳よりチェロを始める。これまでにプロジェクト Q、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト、小澤征爾、故ロストロポーヴィッチの各氏によるコンサートキャラバン、宮崎国際音楽祭、水戸室内管弦楽団等に出演。桐朋学園高校音楽科を経て同大学を卒業。その後 N 響アカデミーを経て NHK 交響楽団団員。2010 年アフィニス文化財団の奨学金を得てミュンヘン音楽大学へ留学。チェロを木越洋、堤剛、ウェン＝シン・ヤンの各氏に師事

◆辺見康孝（ヴァイオリン）◆ Yasutaka Hemmi, violin



松江市生まれ。現代の作品を得意とし、独自の奏法を開発し従来の奏法では演奏不可能な作品もレパートリーとしている。また自ら作曲も行い、ダンサー、美術家、サウンド・デザイナー、舞台俳優などとのコラボレーションも行う。これまでに日本はもとよりベルギー、オランダ、フランス、ドイツ、デンマーク、ノルウェー、ハンガリー、オーストラリア、アメリカ合衆国、南アフリカ共和国、韓国で演奏活動を行っており、武生国際音楽祭（日本）、アルスムジカ（ベルギー）、フランダース音楽祭（ベルギー）、ベルフォール音楽祭（フランス）、ウルティマ音楽祭（ノルウェー）、メルボルン国際芸術祭（オーストラリア）、ブリスベン・バイエーニアル音楽祭（オーストラリア）、TBAフェスティバル（アメリカ）、ナショナル・アーツ・フェスティバル（南アフリカ）、大邱国際現代音楽祭（韓国）、嶺南国際現代音楽祭（韓国）、などの様々な国際音楽祭に招待されている。2001 年より 2 年間はベルギーのアンサンブル Champ d'Action のヴァイオリニスト、帰国後は next mushroom promotion のヴァイオリニストとして精力的に演奏活動を行う他、ハーピスト松村多嘉代とのデュオ X[iksa]（イクサ）では新たな境地を開拓している。またアメリカ、スタンフォード大学などでの現代奏法についてのレクチャーは好評で、作曲家の創作活動に刺激を与え続けている。’04 年に Megadisc（ベルギー）からリリースされたソロCD、’08 年にリリースした X[iksa]ファーストアルバムの他、多

数のＣＤ録音に参加している。’05 年、next mushroom promotion としてサントリー音楽財団より佐治敬三賞を受賞。

◆亀井庸州（ヴァイオリン）◆　Yoshu Kamei, violin



ヴァイオリンを 5 歳、琴古流尺八を 18 歳より始める。2000 年ごろより、主に同世代の作品初演を専門に活動を開始。2004 年東京音楽大学卒業後、20 世紀以降の音楽を集中的に学ぶため’05 年よりベルギー王立リエージュ音楽院に在籍し、元クセナキスアンサンブルメンバーである大久保泉氏にヴァイオリンを、また、20 世紀の室内楽をジャン＝ピエール・プーヴィオン氏に、フリーインプロヴィゼーション、アドリブをそれぞれギャレツト・リスト、ミッシェル・マッソーの各氏のもとで学び、両氏とはベルギー国内各都市での公演にて共演した。また、リエージュで行われたリュック・フェラーリの特集企画においての演奏は、フェラーリ夫人に絶賛されるなど、学内外で多くの演奏機会と実績を残している。’07 年帰国後は日本国内においての同時代作品の演奏を主眼に活動しており、主に室内楽において年間数十回にのぼる公演に携わっている。これまでの主要な参加企画として、’08 年の ex.7 湯浅譲二作品個展、東京オペラシティーコンポージアム’09 および’12 関連公演、武生国際音楽祭、四人組の会（’11 於津田ホール）、ポリーニ・パースペクティブ 2012（於サントリーホール）があり、湯浅譲二、ヘルムート・ラッヘンマン、池辺晋一郎、細川俊夫、三輪眞弘、松平頼暁、ジャコモ・マンゾーニら各氏の室内楽作品を作曲者本人との共同作業にて初演、および再演している。web サイト：http://yoshukamei.com/

◆花田和加子（ヴィオラ）◆　Wakako Hanada,viola



15 歳で渡英。英国王立音楽カレッジのディプロマを得て、オックスフォード大学にて音楽学を学ぶ。卒業後帰国し、東京藝術大学大学院修士課程を修了、同大学院博士課程にて学ぶ。ヴァイオリンを石井志都子、李亮才、ジョルジュ・パウク、澤和樹の各氏に師事。第 3 回ストラディバリウス・コンクール入賞。1999 年度村松賞受賞。アンサンブル東風、アンサンブル・コンテンポラリー α、アンサンブル・ノマド等のメンバーとして古典から現代までの幅広いレパートリーで演奏活動を行っている。また、東京藝術大学、桐朋学園芸術短期大学にて後進の指導にあたるほか、サントリーホール室内楽アカデミーのファシリテーターを務め、（財）地域創造コーディネーターとして公共ホール音楽活性化事業にも携わっている。

◆細井唯（チェロ）◆　Hosoi Yui, violoncello



5 歳よりチェロを始める。2008 年第 54 回鎌倉学生音楽コンクールチェロ部門第 1 位及び野村光一賞受賞。’10 年より現代音楽を主な活動分野とし先進気鋭の若手作曲家達から多くの演奏依頼を受けるロリエ弦楽四重奏団に参加。同カルテットで学内オーディション合格者によるソロ・室内楽定期演奏会に参加。また、プロジェクトQ・第 10 章に参加予定。個人としても現代音楽の初演、演奏を努める。これまでにチェロを久保田顕、佐藤明、久武麻子、苅田雅治、ドミトリー・フェイギンの各氏に師事。現在東京音楽大学 3 年在学。

◆福川伸陽（ホルン）◆　Nobuaki Fukukawa, horn



「福川伸陽のホルンの響きが聴こえてくると、世界が一瞬にして変化するような気がする。ここではない世界のどこからか、不意に風が吹きわたってくるかのように。」（毎日新聞）
「技のデパート」（音楽の友）
「日本のホルン演奏の歴史を変えたといっても過言ではない」（日本ホルン協会）
2008 年、第 77 回日本音楽コンクール ホルン部門第 1 位受賞。ソリストとして、バッハ、モーツァルト、シューマン、リヒャルト・シュトラウス、ブリテン、シャブリエ、サン・サーンス、オリヴァー・ナッセン、ルース・ギップス(日本初演者)などのホルン協奏曲を小林研一郎、下野竜也、沼尻竜典、手塚幸紀、梅田俊明、藤岡幸夫らの指揮者と、日本フィルハーモニー交響楽団や東京フィルハーモニー交響楽団他と共演。また、東京オペラシティ主催のリサイタルシリーズ「B→C　バッハからコンテンポラリーへ」などのホルンリサイタルや「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」をはじめとする室内楽コンサートにも多数出演し、サントリーホール、東京文化会館、東京オペラシティ、東京国際フォーラム、津田ホ

ール、札幌コンサートホール Kitara、大阪 NHK ホールなど、全国各地で演奏している。リサイタルや室内楽、協奏曲の演奏は、NHK、テレビ朝日、NHK-BS や NHK-FM をはじめ、ドイツ、イタリアなどでも放送されている。「ホルンのレパートリーの拡大」をライフワークとして、作曲家への委嘱活動や、珍しい室内楽の紹介を積極的に行っている。そのため、日本初演や世界初演も数多く、吉松隆作曲「Spiral Bird Suite」、藤倉大作曲「PoyoPoyo」は、福川伸陽のために書かれた。オーケストラ奏者としては、20 歳で日本フィルハーモニー交響楽団に入団し、首席奏者として重責を担う。小澤征爾、ヴァレリー・ゲルギエフ、ヘルベルト・ブロムシュテットなどの世界的指揮者との共演も数多い。'12 年より NHK 交響楽団契約団員。ホルンを丸山勉、故田中正大、ブルーノ・シュナイダーの各氏に師事。'06 年、財団法人アフィニス文化財団の海外研修員として、一年間イギリスへ留学。デヴィッド・パイアット(ロンドン交響楽団首席奏者)、ジョナサン・リプトン(ロンドン交響楽団)の両氏のもとで研鑽を積み、ロンドン交響楽団にも客演した。洗足学園音楽大学、フェリス女学院大学の非常勤講師として、後進の指導にもあたっている。'10 年、キングレコードよりソロ CD「Rhapsody in Horn」をリリースした。

◆大石将紀（サックス）◆ Masaki Oishi, saxophone



東京芸術大学、同大学大学院修士課程修了後、2001 年渡仏しパリ国立高等音楽院に入学。サクソフォン科、室内楽科、即興演奏科を全て最優秀の成績で卒業後、さらに大学院課程室内楽科に進み'07 年に修了。文化庁派遣芸術家海外研修員として研鑽を積む。フランス国内のコンクールで入賞後、'08 年に日本に帰国。東京オペラシティ文化財団主催「B→C」に出演し、朝日新聞などの批評欄で高い評価を得た。その後は故ピナ・バウシュプロデュースの国際ダンスフェスティバル NRW2008（ドイツ）への招待出演、東京オペラシティ文化財団コンポージアム、サントリー音楽財団サマーフェスティバルの出演、（財）地域創造おんかつ支援アーティストとして日本全国で現代音楽を主なテーマとした学校コンサートやリサイタル開催、NHK-BS「クラシック倶楽部」で「ガーデン・オブ・ラブ大石将紀スタジオコンサート」が放映されるなど幅広く活躍している。洗足学園音楽大学、東邦音楽大学、大学院非常勤講師。www.m-oishi.com

◆ウェールズ弦楽四重奏団◆ Verus String Quartet

崎谷直人　三原久遠（ヴァイオリン）
横溝耕一（ヴィオラ）　富岡廉太郎（チェロ）



桐朋学園の学生により 2006 年に結成。軽井沢八月祭、宮崎音楽祭、プロジェクトQ、JT が育てるアンサンブルシリーズ他、国内の多数の演奏会、音楽祭に参加。'08 年ミュンヘン ARD 国際音楽コンクールにて第 3 位、日本人の団体として東京クァルテット以来 38 年ぶりの入賞を果たす。'09 年日本音楽財団の協力で王子ホールにて正式なデビュー公演を行う。原田幸一郎、東京クァルテットのメンバー等から指導を受ける。'10 年春より拠点をスイス・バーゼルに移し、バーゼル音楽院にてライナー・シュミット（ハーゲン四重奏団）のもとで研鑽を積む。南仏 BONNIEUX 音楽祭、ドイツ WESTWEG 現代音楽シリーズ、ドイツ BEUGGEN 城でのコンサートへの出演など、ヨーロッパでも活動の場を広げている。'10 年ボザール・トリオの創設者メナヘム・プレスラーと共演、京都青山音楽賞受賞。'11 年バーゼル・オーケストラ協会（BOG）コンクールにて"exaequo"賞受賞、第 7 回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第 3 位。'08、'10、'11 年度、松尾学術振興財団より助成を受ける。'12 年 4 月ドイツの代表的な音楽祭であるシュベッツィンゲン音楽祭に参加。

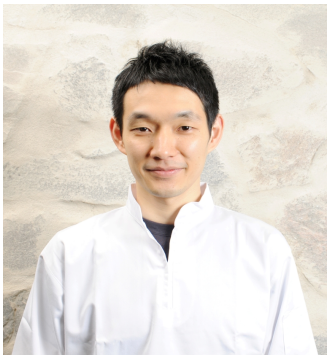
◆坂本龍一（作曲）◆ Ryuichi Sakamoto, Composer　　※コンサートへの出演はいたしません。予めご了承ください。



音楽家。1952 年生まれ。'78 年『千のナイフ』でデビュー，同年 YMO に参加。YMO 散開後，数々の映画音楽を手がけ，作曲家としてアカデミー賞を受賞するなど世界的な評価を得ながら常に革新的なサウンドを追求している。'99 年制作のオペラ「LIFE」以降，環境・平和・社会問題に言及することも多く，9・11 同時多発テロをきっかけに、論考集「非戦」を監修。自然エネルギー利用促進を提唱するアーティスト団体「artists' power」を創始した。2006 年六ヶ所村核燃料再処理施設稼働反対を表明し「stop-rokkasho.org」を開始，'07 年 7 月には有限責任中間法人「more trees」の設立を発表し，温暖化防止についての啓蒙や植樹活動を行うなど活動は多岐にわたっている。また'06 年、新たな音楽コミュニティの
創出を目指し「commmons」を設立。'09 年には音楽活動の現場における積極的な環境配慮への取り組みに対して国連環境計画が世界環境デーの一環として実施する ECHO Festival において「Echo Award」を受賞、また同年 7 月にはフランス共和国文化省より芸術文化勲章オフィシエを受勲する。'10 年、文化庁より芸術選奨文部科学大臣賞を授与されるなど、活動全般において世界各国で高い評価を受けている。'11 年東日本大震災の被災地復興支援プロジェクトとして、「LIFE311 by more trees」・「kizunaworld.org」・「こどもの音楽再生基金 –School Music Revival」などさまざまな活動を継続して

おこなっている。1990 年より米国、ニューヨーク州在住。

◆兼子大輔（L’AS シェフ） Daisuke Kaneko, Chef of L’AS



1979 年生まれ。大阪 ラ・ベカス、東京 コートドール等都内数件の修行を経て、渡仏。カオール（バランドル）、パリ（サンドラス）にて勤務後、帰国。麻布十番「カラペティバトゥバ！」のシェフに就任。L'AS をオーナーシェフとしてオープン。